

## 平成 26 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)

### 1 対 1 対談 (伊勢市) 会議録

- 1 開催日時： 平成 26 年 10 月 21 日 (火) 9 時 15 分 ~ 10 時 15 分
- 2 開催場所： いせシティプラザ 1 階ホール (伊勢市岩渕 1 丁目 2-24)
- 3 対談市町名： 伊勢市 (伊勢市長 鈴木 健一)
- 4 対談項目：
  - (1) 防災対策の支援
  - (2) 医療体制の充実
  - (3) 主要地方道伊勢磯部線の事業着手
  - (4) 第 27 回全国菓子大博覧会・三重の成功に向けた取組

#### 5 会議録

##### (1) 開会あいさつ

##### 知 事

おはようございます。今日は、傍聴の皆さんも早朝よりお越しいただきましてありがとうございます。また、鈴木市長におかれましても、お時間をいただきましてありがとうございます。

今日は、防災や医療のお話をさせていただきますが、昨年の変宮、今年になってからも引き続き、9 月末でも伊勢神宮の参拝客数が 865 万人ということで、このにぎわいの中、今、JR 東海に乗っても、かなり伊勢市の観光 PR をしていただいて、積極的に取り組んでいただいていることに心から敬意を表したいと思います。

そして、今、長崎国体開催中でありましてけれども、三重県勢かなり頑張ってくれていますが、平成 33 年の三重国体の総合開閉会式をこの伊勢で開催させていただくことを先般、決定させていただきました。それに向けても、ぜひ、これからもご協力を色々お願いすることもあるかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それから、いろんな話題に事欠かない伊勢ですが、今度、11 月に市長がイギリス国教会の聖地カンタベリーに行っていたということで、非常に伊勢とマッチした場所に行っていたのではないかと考えています。

私もこのゴールデンウィークに総理に同行してロンドンとケンブリッジに行ってきましたが、精神性というか日本人と似ているところもあって、特に伊勢の変宮の神宮関係の動画などを使って PR したのですが、非常に関心が高かったのも、その本場の伊勢を PR していただくと、非常にイギリスの人たちも喜んでいただけるのではないかと考えていますので、ぜひとも PR をお願いしたいと思います。

また、私も、在日イギリス大使館や在大阪イギリス総領事館に伊勢市が行

っていただくというご連絡をして、サポートもさせていただく予定ですので、ぜひ、成果のあるイギリス訪問になることを心からお祈りしたいと思います。

それでは限られた時間ですが、今日はどうぞよろしくお願ひしたいと思います。

## 伊勢市長

本日は、大変お忙しい中、伊勢の地まで足を運んでいただきまして、ありがとうございます。また、週末から県人会等日本全国を駆け回っていただきまして、感謝申し上げます。

昨年は特に遷宮ということで、知事の情報発信の力の強さと、また、受入に関しましては、県警の皆さんに大変なお力添えをいただきまして、お白石持ち行事、遷御、皇室の皆様方の警備体制に大変お力添えをいただきまして、無事に済んでいることに感謝申し上げます。

本日は、時間が限られていますので、防災対策、医療体制の充実等、骨格的予算並びにその次の予算に向けて反映していただくことを心強く願ひまして、本日はよろしくお願ひ申し上げます。

## (2) 対 談

### 1 防災対策の支援

## 伊勢市長

防災対策ということで、知事並びに県の皆様方に大変なご尽力をいただいております。特に知事は、前回の選挙の前後に「3.11 東日本大震災」があったということで、本当に忙しいさなか、宮城県まで足を運ばれて、広域的な支援をされているということで非常に胸を打たれた思いがありました。

三重県で新地震津波対策行動計画という非常にきめ細かな対策をいただいております。特に阪神・淡路大震災からの課題等も結構たくさんある中で、改めて東海・東南海・南海地震の対策のサポートをいただいていることを感じました。

ただ、我々のところでも、今、津波対策ということで、イメージしていただくと宮城県の名取市、仙台市のように非常に海岸がべたっとしたところであり、逃げるところがほとんどない状況です。

そういった中で、小学校、中学校の外付けの避難階段の整備をして、それだけでは足りないところに津波避難タワーなどをスピーディに造っていかうということで進めさせていただいております。

ただ、一方では、今、こういったすばらしい計画がありながらも、市町の状

況からすると、対策についてそれぞれ地域の特徴から対策を立てるというお話もありまして、悩んでいる部分もたくさんあります。例えば、避難行動要支援者や被災者に対する名簿の作り方、障がいをお持ちの方のサポートのあり方、防災施設のあり方、こういったものが市町それぞれで頭を抱えながら、独自で調べて研究して構築をして対策をしているところがありまして、これは実際に三重県から見た場合に、これは統一されてしっかりとした計画になっているだろうかという、少し不安が残ってしまっていて、そういった中で、今我々が参考にしている形とすると、高知県さんの災害支援のあり方というものを三重県さんにも追いかけていただけないかということをお願いさせていただきたいと考えています。

まず1つ目に、先ほど申し上げました津波避難施設等の建設構築物に対する技術の支援、これは我々独自で調べながら、三重大学の川口先生等にもお教えいただいておりますが、実際に三重県内の今、18市町の沿岸のところでは津波避難施設を建てる基準はちょっとばらつきがありまして、担当者レベルでいくと、うちはこちらやけど、こっちはこうというふうに結構ギャップがあります。そういった部分で技術支援をつくっていただきたいというのが1つであります。

2つ目に、防災施設の財政支援ということで、国から来ているもので県を通じていただいている枠もありますが、ちょっと寂しい部分がありまして、高知県さんでいくと市町の負担はゼロという具合に進めていただいております。実例を出しますと、高知県さんでは、平成23年度に避難施設が18あったのが、計画を進めることによって平成25年度で90施設までこの避難施設ができあがってまいりましたが、我々三重県でいきますと、平成31年までに27箇所という、随分開きがあります。当然、津波避難の浸水の想定が違いますから、一概には全て高知県のほうが正しいというわけではありませんが、やはり市町の負担をゼロにするぐらい、県の財政的なリーダーシップを発揮していただくと非常にありがたいと考えています。

もう一つは、市町を越えた広域での課題への支援ということで、避難情報の発令のあり方、先般、特別警報ということで非常に困ったことがありましたが、避難情報の発令のあり方や、先ほど申し上げました台帳、生活支援のあり方、こういった市町を越えて必要なものについて、さらに県からのご支援をお願いしたいと思っております。

まずは、1点目は簡単によろしく申し上げます。

## 知 事

ありがとうございます。伊勢市さんにおかれましては、防災対策、地域の実情に応じて積極的に取り組んでいただいていることに敬意を表したいと思います。例えば、今度も、倉田山に消防本部も移転していただくということで、

様々なハード整備のきっかけに合せて、より強靱な形でハード整備をしていこう、機能を強化していこうという考えで移転をしていただいたり、あるいは、聴覚障がいの方々の個人情報についての要援護者としての連携協定、これも最初に提携したときから、さらに毎年進化をさせて協定の締結もしていただいております。そういう地域独自の実情をふまえて防災対策を積極的に展開していただいていることに感謝を申し上げます。

それで、3点あったかと思いますが、まず技術支援、特に津波避難タワーの関係ですが、少し経緯などを申し上げますと、国のほうで「津波避難ビル等に係るガイドライン」というのがあります。今、市長から、国がつくったもので、それを地域ごとに落としていくのはなかなか担当レベルでは難しいというお話がありました。高知県では、大体そのガイドラインをほぼそのまま使って、ちょっと手を加えて高知県版として出させていただいている。

三重県では、そういうマニュアル類や地域に落としていただくためのために、もちろんそのハード整備の津波避難タワーなども大事なので、県が市町に対する技術支援も大事だとはもちろん思っていますが、まずは自助・共助の部分のマニュアルを先行させたいと思い、避難所運営マニュアルや「Myまっぷらん」を使った津波避難モデルなど、特に住民の皆さんの自助・共助のところの地域に応じた落とし込みのところをまず優先してやっていこうという考え方で、まず先にそっちをさせていただきました。特に「Myまっぷらん」では伊勢市さんにも1つのモデルとして大変お世話になりました。そういうのが段々できてきたということもあるので、その津波避難タワーの技術的な支援につきましては、国のガイドラインがある中で、県が新しいマニュアルみたいなものを作るのがいいのか、それとも、個別に相談に乗らせていただく体制をつくるのがいいのか、高知県さんをもう少し勉強をさせていただいて、市町の皆さんの技術支援についても、どうあるべきかということを少し検討をさせていただきたいと思っています。

それから、財政支援の関係は、今、県のほうで地域減災力強化推進補助金という、2分の1出させていただく補助金を出させていただいています。これは、どちらかという半分ぐらいは避難対策に使っていただくことが多いと思うので、金額のボリューム的にはなかなかぐっと上がらないようなものが多いですが、その地域減災力強化推進補助金は東日本大震災の前にもありましたが、東日本大震災でその補助金のあり方を見直して大幅に変えて、そこから今年4年経とうとしていますので、地域の市町ごとにそれぞれのハード整備や資機材の整備などが進んでいるところと、そうでないところと大分差が出てきていますので、その地域の市町の防災対策の整備をふまえた形で地域減災力強化推進補助金のあり方を少し見直したいと考えていますので、その中でニーズを市町の皆さんのをよく聴き取って、どういう部分に財政支援を強化していけばい

いか、よく考えたいと思います。

一方で、三重県の地域減災力強化推進補助金の特徴は、国が出している補助金の対象外を対象にしようとしていますので、国が結構充実してきている部分や、あるいは、南海トラフ地震対策特別措置法の津波避難対策特別強化地域でかさ上げのあるような部分については、地域減災力強化推進補助金では見ずに、国で対象とならない部分で県で対象とし、それをその市町のニーズの変化、体制の状況をふまえてということで、少し見直しをするべく作業をしていきたいと思っています。

それから、広域のところは、特に情報提供等のあり方、特に8月の特別警報は混乱した部分があったと思います。一方で、台風18号19号においては、伊勢市さんもそうですが、県全体として市町の皆さんの情報の発令の仕方が非常にシステムティックかつ事前事前という形になってきたという印象を、県の防災対策部の担当のメンバーが受けていました。それは、それぞれの市町の皆さんとコミュニケーションさせていただいて検証作業をさせていただいている中でそういうふうになってきたのかなと思っていますので、本当に市町の皆さんが特別警報のときの経験をふまえて、この18号19号のときは非常によくやっていたらいいなと思っています。

広域の情報のあり方や統一的にやっていくこととか、例えば県営施設等も含めてしっかり検討していきたいと思っています。

## 伊勢市長

ありがとうございます。自助・共助の支援を先行されてということですが、災害は待たないの状況でありますし、財政的支援の条件はできる限り市町のこうしたい、こうやっていきたいという部分に適応させていただけるように緩和させていただいて、なおかつ予算も増やしていただくと非常にありがたいと思っていますので、今後、見直しを検討されるということですので、ぜひとも期待をさせていただきたいと思っています。

それと、もう一つ、広島の土砂災害等もありましたが、三重県の状況を見ると、海岸沿いの津波の被害の部分と土砂災の山手側の部分と両方対策を講じなければいけないと思っています。我々、地震津波が起こった場合には当然山手側の市町の皆さんに協力をいただくことになるでしょうし、もし万が一、土砂災があったら助けに行くということで、市町の連携のあり方のテーブルも、もしよければ、県かもしくは南勢志摩でテーブルを一つ構築させていただいて情報交換等をさせていただけると、例えば、医療機関のネットワークにしても、今回の課題にもあった薬剤の関係の輸送に関しても、実際に防災にあたっての資源がどこにどういったものがあるのかというのを可視化して、いつでも動かせるといったような環境のテーブルを一つ構築させていただきたいなと思いますが、その

辺はいかがですか。

## 知 事

ありがとうございます。正に今、市長おっしゃっていただいたように、それぞれで連携し合う、もちろん遠くの人の力を借りるのがありますが、やはり近くでまずしっかり対応するというのは大事だと思いますので、今で言うと、桑名市や木曾岬町あたりでは県境を越えての海拔ゼロメートル地帯での広域避難の検討会等を行っていますし、実際に四日市地域防災総合事務所と桑名地域防災総合事務所の管内で、保健所の関係がやや入り組んでいますので、合同で訓練を行ったり、松阪地域防災総合事務所管内では資材の備蓄の調整等も単位で行っていますので、ぜひ、南勢志摩地域の範囲で、特に今、市長が定住自立圏のリーダーシップを発揮していただいていますので、そういう範囲を中心とした、まず避難から始めるのがいいのか情報交換から始めるのがいいのか、それは皆さんのテーマをお伺いさせていただきたいと思いますが、ぜひそういう協議の場をつくらせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

## 2 医療体制の充実

### 伊勢市長

まず、医療体制の充実ということで、我々の1対1対談で毎回テーマにさせていただいておりますが、伊勢市民病院の新規建設と財政再建に今取り組んでいるところですが、伊勢病院の耐震、老朽化のことが課題になっておりまして、そういった中で、これを見ていただくと分かると思いますが、今、我々が伊勢病院の隣接地を使って病院をこれから造っていこうと、平成30年5月を目標に進めております。

これは先ほどお話をした防災対策の状況を見ますと、県の発表していただいた過去最大クラスの津波の想定、また、理論値の最大クラスの想定ということで見てみますと、ここまで伊勢市の大半が津波が押し寄せてくる環境になってきまして、こうなってきた場合に、医療機関をどういうふうに構築していかなければならないのかというのが非常に大きな課題になってくると考えています。

ご承知のとおり、我々、伊勢志摩サブ保健医療圏ということで、伊勢志摩の患者さんを助けていこうという病院ですが、その際に県の計画を見ると、地震が起こって津波が起こって、患者さんを救急搬送した場合に、今のこの状況でも1万人以上の方々が病院から溢れてしまうんじゃないかという計画があって、もう一回、我々もやはり災害医療支援病院としてのあり方を構築していきたいと思っております、そういった観点から少しお話をさせていただければと

思います。

現在地は、この津波の最大クラスの浸水予測には当てはまっていません。なおかつ、伊勢二見鳥羽ラインがありまして、鳥羽志摩からの搬送も、これは間違いなく安全であるということが条件です。これがあって、きちっと支援ができてくるのではないかと考えています。そういった中、単純に新しい病院を造るというのではなく、防災機能もきちっと整備していかなければということで、この観点について、県が来年度進められる地域医療ビジョンにも、災害の観点からどういう医療体制がこの地域に必要なかといった観点をぜひとも含んでいただきたいということをお伝えしたいと考えております。

それで、今回、県のほうの多分来年度に向けての下調べになる「医師・看護師需給状況調査の中間報告」、非常に内容の濃いもので、全部拝見させていただきました。当然、今の三重大学の地域枠の関係もあり、医師と患者の需給マッチングに関しては、これから大丈夫であろうと載っていますが、ここに自然災害に対する視点は一個も含まれていなくて、また、先ほどの県の計画についても、アバウトには「医療機関の連携等もやっていかないかん」とはありますが、ただ、やっぱり受入が困難な患者数が1万2,000人ということで、三重県全体の50%以上がこの地域です。

そういった観点からも、来年度の地域医療ビジョンの策定については、災害対策の視点をしっかりと盛り込んでいただくことが大事かと思っておりますので、ぜひともお願いしたいと思います。

また、医師・看護師の対策についても毎年お話をさせていただいていますが、非常に県の皆さん一所懸命取り組んでいただいて、平成23年、24年までは勤務医数が全国でもワーストのほうでしたが、これが30何位ぐらいまで上がってきていますので、これは県の皆さんのご尽力のおかげだと感じています。

そういった中で、この取組を続けていただくことと、もう一つのお願いは、県立看護大学の地域推薦の枠について、緩和並びに受入のお願いをしたいと思っています。以前、通信簿の平均が4.5からと、4.5はなかなか取れない数字ですが、4.5から4.3に少し下げさせていただきましたが、それでもなかなか難しい状況もあります。なぜこの県立看護大学の件をお願いしたいかというと、現場のスタッフの声を聞くと、この県立看護大学を出てきたスタッフは非常にできる方々が多い。非常にその人材育成で力を発揮していただいているということがありまして、やはりレベルの高い方々の人材育成をしていただくことを、これから環境整備によって条件緩和をぜひともお願いしたいと思います。

それで、もう一つが災害拠点病院についてですが、東日本大震災も含めてDMATの皆さん方のお力添えがあって、救命活動に力をいただきましたが、調べてみると、日本全国の中でDMATの隊員養成というのは東京都内と兵庫県しかなくて、三重県でも年間3チームしか養成ができてない状況があり、やは

り三連動地震が予想される中では、いち早くこのDMATをどれだけ育成していくかというのは、非常に大事なポイントになってこようかと思っています。この養成のあり方について、国のほうに拡大をしていただくのか、もしくは、できれば中部地区にDMATを養成する機関を誘致、構築していくことをぜひとも早急にお願ひしたいと考えております。

そして、病院関係ではもう一つが、お金の話ですが、新病院建設にあたっては公立病院に対する支援というのは結構薄くて、いつも頭を悩ませております。1つ目が、医療施設耐震化基金の増額支援と、あと、もう一つ悩ましいのが、建設費の高騰に対する交付金の算定基準額が高騰前の基準で、病床1平米当たりで30万円という状況で、昨今の建設費の入札の状況等を見ますと、2割3割増してもきかないような状況が続いていますので、交付税の算定の見直しについてお力添えをいただければと思っています。

そういったわけで、1つ目が地域医療ビジョンの策定について、2つ目は医師・看護師対策、次にDMATの隊員養成、そして、新建設の財政支援の4つについて、ぜひともお願ひしたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

## 知 事

ありがとうございます。まず1点目の平成27年度につくる地域医療ビジョンの関係ですが、基本的には病床機能の分化・連携を進める制度で、医療の需要動向などから、病床や医療従事者の配置状況を見直しましょうというのが、基本的な地域医療ビジョンが策定される趣旨です。皆さんもご存知だと思いますが、諸外国と比べても人口当たりの医者数はそんなに変わらないんですが、それでも医師不足というのがなぜあるかというと、病床数が日本は諸外国と比べて圧倒的に多いから医師不足、看護師不足になるという厚生労働省の分析があって、その病床を適切にコントロールしていかないといけないから、そういう制度を設けようということで、今回、地域医療ビジョンができたわけです。そこで、せっかくするのであれば、病床コントロールだけではなく、地域の医療についてのいろんなことを考えたらいいじゃないかと、特に災害のことで考慮してほしいというご意見だったと思いますので、一応、地域医療ビジョンをつくっていくときに、地域基礎自治体の皆さん、あとは学識経験者の皆さん、あるいは病院関係者の皆さん、医師会の関係の皆さんなどいろんな関係者の皆さんに集まっていたいただいての有識者の検討会など、それ以外も含めていろいろご意見を聞きながらつくっていきたいと思っていますので、そこで災害のことなどもご意見をいただいて、反映できる部分はしっかりと反映していければと思っています。特に具体的な協議の場は地域ごとに設定していこうと考えていますので、その地域の実情に応じたご意見を関係者の皆さんからいただいて議論できればと思っています。

2点目の看護師・医師の対策で、医師のほうは、需給調査によると県のトータルでは2035年ぐらいには需給はマッチするということになってはいますが、地域偏在と科目偏在は残るとなっていますので、引き続き、医師確保をしっかりやっていかないといけないと思います。特に三重県としては、中長期的な取組としての医師修学資金については、これまで単年で4億円ぐらい出していますが、これは日本全国で2番目に多い額になっているので、そういう意味では、市長おっしゃっていただいたように、まだまだ低位ではあるものの全国30番台ぐらいのところまで今来ているということ。さらにこれからその修学資金を使った子たちが県内医療機関に行ってくれると期待をしています。

看護大学の地域推薦枠の話ですが、これは去年1月のサミット会議で鈴木市長から4.2ぐらいにしてほしいという提案をいただいて、そのとき確か、「ちょっと時間をください」と私が言って、その後、4.3にさせていただいたという経緯がありますので、正に市長からご提案いただいた案件で、引き続き看護大学について優秀な人材が多いというご評価をいただいていることを本当にうれしく思っています。

看護大学は、今年度から文部科学省の補助で「大学教育再生加速プログラム」というものに補助を受けたりして、あと、言っているのかよくわかりませんが、イギリスの大学と看護大学が連携をするようなことを考えていますので、そういう意味で非常に看護大学は頑張っていますから、そういうご評価をいただくことはありがたいと思います。

そういう意味で、地域推薦枠の緩和については、これまでいろいろ行ってきた人材育成やその試験の様式の変更など、その成果を検証しながらよく考えていきたいと思っています。

一方で、県外からも優秀な学生が入学したいとか入学をするという意向もあるので、その辺のバランスも考えたいという大学側の意向もあるようですが、県立ですし地域あつての県立看護大学ですから、そういう意味では少し成果を検証しながら対応を考えていきたいと思っております。

それから、3点目の災害拠点病院の関係です。基本的には二次医療圏ごとに災害拠点病院を指定させていただいてはいますが、伊勢の場合は、去年の12月だったと思いますが、県独自の制度の災害医療支援病院ということで拠点病院を支援する病院として伊勢の市立病院を指定させていただきました。それは、正に先ほど市長に出していただいた津波浸水予測図の中で、災害拠点病院になっている伊勢赤十字病院が浸水の可能性もこの図上ではあるので、伊勢市の総合病院も災害の支援病院として拠点病院をサポートする体制を重層的につくっていこうということでさせていただいています。

ですので、地域ごとに実情が、拠点病院と支援病院の関係もありますし特性もありますので、また、地域ごとの地域災害医療対策会議というのがあります

ので、そこで十分議論をさせていただきながら日々の運用は考えていきたいと思ひます。

そこで、今、市長からあったDMATの研修の場所、今、三重県では13医療機関の18DMATチームが活動可能なチームとしてありますが、やはりこれはそれぞれ増やしていけるところは増やしていきたいと思ひていますので、11月に毎年、県として様々な分野の提言・提案・要望をまとめて、関係省庁に要望、提言に行く機会がありますので、その中に、今、市長からおっしゃっていただいたDMAT研修の受講を希望する医療機関に対して受講機会を確保することを提言に入れたいと思ひています。

加えて、最後にありました普通交付税の対象の病院事業債ですが、これも正に時宜を得たことだと思ひますが、これは平成20年に国のほうで「公立病院に関する財政措置のあり方等検討会」というのがあって、当時は公立病院が赤字で、そのお金の使い方もずさんな使い方が結構あるということで、それでは病院収入の中にしっかり回せる病院が残っていくべきだというガバナンスを利かしていかなければならないということで、なるべく国の財政措置については限定的にやっいていこうというような趣旨の下で、平成20年11月にそういう報告書が出て、普通交付税の対象となる病院事業債の対象から除外という、さっきの平米あたり30万円を上回る部分は対象外という提言が出たところですが、今、正に建設費の高騰とか人材不足という部分がありますので、そこについて対象として見直すように、これも秋の国への提言の中に盛り込んで、国に働きかけていきたいと思ひておりますし、我々としては、まだ残っている医療施設の耐震化の関係も、交付金の延長についても国にも働きかけていきたいと思ひております。

## 伊勢市長

ありがとうございます。地域医療ビジョン、繰り返しになりますが、我々観光地として、今、1,000万人近く年度でいこうと思ひていますが、今年は9ヶ月間で800万人ぐらいになりまして、今、実人口は13万人ですが、滞留人口を日割りで換算すると17万人ぐらいになってきて、そんなときにもし地震が来た場合にどうしていくかと。こういった体制をいち早く構築していきたいと考えていまして、一番分かりやすい例としては平成7年の地下鉄のサリン事件、あのときの救援が日野原先生の聖路加で随分と助けていただいたみたいですが、あの先生の言葉を借りると、「病院がいつ戦場になるかもしれない」。そういった中で危機管理に見合った病院づくりをされて、通常ではあり得ない酸素の配管をされ、サリン事件の応急処置をされた歴史があって、我々とするれば、万一、地震が起きて津波が街中まで押し寄せてきたときに、伊勢・鳥羽・志摩・度会地域の方々がどっと来るときの体制はきちんと整備していきたいと

思いますので、その有識者の方々が入られる会議にも、ぜひとも率先して防災担当局から、南海トラフの地震が起こったときの医療体制はどうするのかという視点も組み込んでいただければ非常にありがたいと思いますので、ぜひともよろしくをお願いします。

あと、厚生労働省の病床数のお話が出ましたが、病床数については少しフレッシュな部分もありまして、その中でも日本の病院の勤務医の方々、スタッフの方々の過剰労働の環境を見ると、病床数に合わせた医師・看護師、コメディカルの数と、実際に欧米の形と同じクラスのスタッフの充足を考えた場合には、厚生労働省の数字は、もう一回斜めからのぞいてみるのも一つではないかと考えていまして、おそらく財務省も厚生労働省もできるだけ地方の医療費を削減したいので、税と社会保障の一体改革を見ても明らかですが、我々が住民の生命と財産を守ることが第一であって、その後に予算的にどうしていくかというのが大事だと思いますので、その点もぜひともお願いしたいと思っております。

### 3 主要地方道伊勢磯部線の事業着手

#### 伊勢市長

3番目の主要地方道伊勢磯部線の事業着手ということで、今回、式年遷宮の一つの課題が渋滞対策という非常に大きな課題がありまして、三重県伊勢庁舎の駐車場をお借りしたり、使えるものはどんどん使ってくれということで、パンクをしなくて済みました。

しかしながら、先ほどお話をさせていただいたとおり、自然災害があった場合には、国道23号しかり、県道の通称「八間道路」というところもしかり、結構今、生活道路として基幹的に担っているところが被災した場合に、伊勢磯部線である通称「御木本道路」と「伊勢二見鳥羽ライン」というのは非常に大きな基幹道路になってくる可能性があるのではないかと考えています。「3.11」のときの宮城県を南北に結ぶ高速道路のように高台にあった道路であれば一定の防波堤的な役割を示した部分もありましたが、国道23号はフラットな道路ですのでそのまま押し流されていく可能性があると思います。

そういった中で、やはり「御木本道路」というのはもう一回きちっと整備をしていくことが大事ではないかと考えています。この計画につきましては、もう知事ご承知のとおり、平成元年から平成10年の事業認可の工事となっていて、伊勢自動車道が整備される部分についてはきちっと工事をしていただいたわけですが、実際にその工事をきちっとしてもらっているのはこの水色の区間でありまして、未整備の区間がまだ50%、半分ぐらいしかまだ終わってないんです。

歩道をカラー舗装してもらったりいろいろ手は入れてもらっていますが、や

っぱり子どもたちや高齢者の方が歩行したり自転車で通るときには、非常に不便で危険な箇所が多数ありまして、この事業をもう一回着手をしていただいて、国体もしくは次の遷宮までの間、その期間は分かりませんが、もう一回、再事業を進めていただくよう要望させていただきたいと思います。

観光の観点からいいますと、御木本幸吉翁が内宮さんに行くのに道路をつくってあげようと一生懸命頑張っていたわけですが、最近、観光協会がレンタサイクルをやっています、非常に利用件数が今増えています。始めた当初は2,000件ぐらいでしたが、大体年間で今は3,000件を超えてきて、週末になるともう全然自転車の空きがないという状況であります。

それで、この国土交通省の三重河川国道事務所とイオンさんと観光協会さんが連携をして、パークアンドサイクルというのが10月末からスタートされる予定になっていまして、イオン伊勢店さんから駐車場を借りてそこに車を停めて、そこから自転車で外宮さんを回って内宮さんを回ってもらってという企画をしていただいているということで、そういったことから自転車の人口がどんどん増えている状況でありますので、例えばですが、この工事に着手をしていただいて、その際に電柱の地中化をしてスペースを広げて、自転車が通りやすいような空間をつくって、三重県の一つの自転車観光のモデルにできないかということを考えています。

そういったことで、まずは、より早くこの「御木本道路伊勢磯部線」をもう一回きちっと着手するというお返事をいただいて、このお話を終わらせていただこうと思っています。

## 知 事

ありがとうございます。通称「御木本道路」につきましては、今市長からお話をいただいたところですが、平成14年に事業が休止となりました。市長もよくご承知のとおり、用地交渉で極めて難航したという歴史もあって、事業休止後も何度か当たったりいろいろご意向をお伺いしても、なかなか用地交渉に応じていただけないというような現実もある中で、この場で「やります」とは申し上げられないですが。

一方で、20年後の遷宮をにらんで、どういう道路ネットワークをこの伊勢の中でつくっていけばいいのかということについては、ぜひ検討の場を進めたいと思っています。

今回の伊勢市さんのご努力や地域の皆様のご努力で、渋滞もありましたが、それによって大きなストレスで、「もう二度と伊勢へ来るか。」というような声はなかったと思います。それは皆様のご努力だったと思いますし、それは基本的には道路整備計画は決めていたとおりに整備したものの、それ以上を超えるお客さんに来ていただいたという中でもありましたので、そういう見込み

の立て方なども含めて、次の 20 年に向けてどういう道路整備をしていけばいいのかというのを一緒になって議論させていただく場をつくっていきたいと思いますし、国とも連携をする形でやっていきたいと思っております。

国体に向けては、まずは館町通線のところをしっかりと道路改良事業をさせていただいて県営総合陸上競技場への円滑なアクセスを確保するというのを最大目標にしてさせていただきたいと思っております。

それから、自転車観光については、様々な地域からご要請をいただいております、特に南勢・志摩地域が多いんですが、全国的にも例えば広島県、愛媛県とか、しまなみ海道を使っていたり、比較的自転車を使って観光をうまくやっているところとか、あと、海外では台湾にジャイアントという大きい自転車メーカーがあって、そこが台湾中にレンタルサイクルの場所を自分たちの金でつくって、行政はそのサイクル用の道路を整備するという形でうまくやって、台湾の人たちも観光客も自転車を使って余暇を楽しむというのが文化として根付いていたり、あとは、伊勢とか三重県の都市とはちょっと雰囲気は違いますが、今、ロンドン市長のボリス・ジョンソンさんがかなり自転車を見直して、積極的にやっています。私も 14 年ぶりぐらいにロンドンに行きましたが、自転車の多さにびっくりしたぐらいでした。そういう形で、日本のみならず世界的にも自転車が見直されているところです。

三重県も担当の検討をする体制が県土整備部の道路関係部局の中にあるので、それは道路の観点だけになってしまうので、もう少し自転車のことについてどう活かしていけばいいかというのを、短期的には答えが出ないかもしれませんが、中長期的な観点で検討していきたいと思っておりますので、ぜひ伊勢市さんのいろんな事例を、ちょうど環境の関係で電気バスの関係も伊勢市さんのモデル事業でさせていただきましたので、そういう自転車のというのが出てくると、前の取組と相乗効果があっているかと思っておりますので、そのあたりもいろいろ教えていただければと思います。

## 伊勢市長

ありがとうございます。志摩のほうでもサイクルトレインとかいろんな取組をしていますので、これからの観光のターゲットは細分化されてしまっている時代なので、スポーツもやらないかん、バリアフリーもやらないかん、あれもやらないかんと非常に大変なわけですが、そういったことを逐次イノベーションしながらやっていくことが大事かと思っておりますので、ぜひとも南勢志摩地域活性化局でご支援お願いしたいと考えていますが、まずはもう一回再事業するというお気持ちをぜひともお伝えをさせていただきたいと思っております。僕もあの辺、近所でありまして、たまに歩いて役所へ行ったり自転車で走っていたりすると、本当に危ないところがあって、いつ事故が起こってもおかしくない状

況であります。

今、我々が道路環境で困っているのが「八間道路」の渋滞とこの「御木本道路」のことということで、それだけ県道としての活用が非常に高い道ですので、そういった県道の環境整備というのをもう一回お願いしたいと思います。

その中で一つ、今、僕も地域懇談会で各地区を回っていますが、どこでも話が出てくるのがやっぱり交通安全の関係です。今、地元の方々が毎日子どもの登下校の見守りをしていただいている中で、この停止線とか横断歩道といった道路交通の交通安全に関する予算を県警のほうにどかっと渡してくださいというそれだけのお願いでありまして、地元の伊勢署の皆さんなり県警の皆さん、大変よく頑張らせていただいているので、子どもたちの安全のために県警への交通安全の予算の拡充、それと、柔軟な適用のあり方、今はもう面的な整備で要望を受け付けて、半年か1年ぐらいのところまでべたっとやるという、効率化では仕方がない部分ですが、こういった状況を見ると、8割方線がなくなってしまっていて、取締り等へも支障が出るのではないかと気になっています。

こういった状況を、大所高所の県政も大事ですが、足元をしっかりと固めていくことが来年に向けても大事なところではないかと思っていますので、ぜひともこの点については県警予算の拡充をお願いしたいと思っております。

## 知 事

ありがとうございます。道路標示が摩耗して消えてしまっていて、少し子どもたちの通学などに支障がということについては、平成25年度のときに、例えば、亀岡市であった通学中の子どもたちに車が突っ込んでいったというようなこととか含めて、いくつかそういう子どもたちの通学における凄惨な事故がありましたので、その年の経営方針だったと思いますが、子どもの通学路の安全ということで緊急点検をし、整備が必要なところは優先的にやっというようにしていますので、市長おっしゃっていただいたようにどかっとは増えていませんが、やや増えたというような程度で、いずれにしても県警も引き続き集中点検ということで点検月間を設けてやっておりますので、十分地元の皆さんともお話をさせていただきながら、予算についても必要な箇所を、とにかくつかみで上げるわけにはいきませんので、県警や道路管理者でよく点検をパトロールしてもらって、「ここまでは必要」というのをしっかりと遠慮せずに言ってもらって、それに付ける付けないの判断をよくしていくような形で予算編成の中では努力をしていきたいと思っております。

## 伊勢市長

ありがとうございます。去年か一昨年1対1対談の中で、宇治山田港のしゅんせつをお願いをさせていただいたときに、船底が擦るかわからないという

お話をして、早急に対策を取っていただいて本当にありがたいと思っていますが、今回の事例も考えてみると、市でも県でも国でもどこでもそうですが、それぞれが所管する公共施設やインフラについての修繕するタイミングの基準が多分アバウトすぎるのかなと、ちょっと感じたわけです。例えばVIPの方がお伊勢さんに来るとなると、昼夜かけてきれいにさせていただいておるわけで、それはそれでありがたいですが、目の届かないところになると、8割9割方なくなってしまうても手が付いていない。ということは、そこで50%見えなくなったらきちんとするか、しゅんせつの問題でもあと1メートルまできたらもうこれはしゅんせつのタイミングというような基準を構築していかないと、継続的なきちんとしたマネジメントというのはできていかないのかなと思いますので、その公共施設のマネジメントとは違いますが、その辺の基準づくりというのでも練っていただければ非常にありがたいし、住民の方も「あとあれだけいったら、きちんとやってくれるな」という安心感につながりますので、それもお願いしたいと思います。

## 知事

ありがとうございます。特にそういう観点で大きく取り組んだものが河川の堆積土砂の撤去で、皆さん自分のところの目の前の河川は取ってとおっしゃるけれども、県内で緊急度がどんな感じかとかというのが分からないので、今年度はここをやります、その次の年度はこういうところをやりますというのを可視化して市町の皆さんと共有してという仕組みを作らせていただきました。

あと、長寿命化計画のようなものをインフラにはそれぞれ作っていますが、そういうものが市民の皆さんに理解していただきやすい情報の提供や、また、基準がないところであればそういう基準づくりとか、そういうのを今のご指摘をふまえて積極的に取り組んでいきたいと思っています。

## 4 第27回全国菓子大博覧会・三重の成功に向けた取組

### 伊勢市長

この菓子博については知事も積極的にPRをしていただいておりますので、僕が伺いたいのは来年のミラノのことです。そういった大型のイベント、また情報発信について知事の考え方をここで言ってもらったらありがたいと思いますので、よろしく願いいたします。

## 知事

ありがとうございます。今回、第27回の全国菓子大博覧会を平成29年度に伊勢で開催していただくということで、広島の時には166億円の経済効果が

あったと言われているので、そういう経済効果を大いにもたらすものにしていきたいと思います。

私どもとしては、来年のミラノそれからその次、できれば食の関係の関係閣僚会合、G8、そして、今回の菓子博、次はインターハイ、また、国体というふうに、その前に東京オリンピック・パラリンピックがありますので、こういうところに一連で三重県の食というのをもっと売り出していくような形にしていきたいと思っていますので、それぞれの年度のイベントをどうこなすかではなく、まず一つの食の大きな盛り上がりとしては、菓子博に向けてミラノも同じような仕込みで統一的なコンセプトで売っていくような形でやっていきたいと思っています。

何といっても食は小規模企業の皆さんが関連していることが多くてすそ野が広い。ものづくりから販売から生産からいろんな人たちがいますので、ぜひ、その食の産業の取組の大きな柱のターゲットの一つとして菓子博を捉え、大いに盛り上げるべく、また、伊勢市さんのご協力もいただいて、一緒になって菓子組合の皆さんと共に頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

#### 伊勢市長

よろしくお願ひいたします。

#### 知事

ありがとうございます。

#### 伊勢市長

先ほど地区のお話もいただきましたが、昨日、一昨日と三重テラスで「伊勢の逸品市」ということで「蓮台寺柿」と「伊勢の田舎あられ」と「伊勢ひじき」ということで紹介させていただき、来場者の方、どれもお褒めをいただいております。

今日、本当はこの蓮台寺柿と一緒に横輪芋という、バイオトレジャーに認定をしていただいていますので持ってきたかったんですが、まだ時季がもう少しということで、今日は蓮台寺柿になりましたが、そのバイオトレジャーに認定していただいたおかげで、生産者の方々が本当に意気が上がって、もっと頑張っていけないかなということでモチベーションも上がって、本当にありがたいと思っております。

三重県内のそれぞれの逸品が、全国に流通するのと同時に、海外にも進出するきっかけをミラノ菓子博等も通じまして、そういうきっかけづくりにお力添えいただけたらありがたいということで、この蓮台寺柿を知事を利用して少し

でもPRできたらなと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

## 知 事

この前、タイとマレーシアに行ってきましたが、タイはセントラル・フード・リテールというタイで113店舗を持っているスーパーに行きました。元々は南紀のミカンを持っていったのですが、そこで併せて柿とイチゴを売るようにして、非常に柿はいいという評価を得ているのと、その翌日にマレーシアに行つてイオンマレーシアで三重県フェアをやってきましたが、そこでも柿は非常に人気があるから出せるならどんどん出してほしいというご要望もいただきました。

生産者の方が自分たちだけで流通するのは大変でしょうから、そこは農業団体の皆さんとか各行政や流通の皆さんと協力して、ぜひいい流通ができるように取り組んでいきたいと思います。今、本当に海外の人たちの中で柿が人気です。ぜひ、積極的に売り出したいと思います。

いただきます。

## 伊勢市長

これは次郎柿と違って割合に歯触りがなめらかで。今、糖度も14から15ぐらいまで上がってきていますので。

## 知 事

新鮮。

## (3) 閉会あいさつ

## 知 事

今日は皆さんどうもありがとうございました。市長も本当にありがとうございました。

今日は、特に防災や医療、道路、そして、菓子博と蓮台寺柿のPRと。これで4回目の1対1対談ですが、一貫して防災、医療のことをずっと市長がおっしゃっていただいていますので、伊勢市の住民の皆さんプラスアルファで、観光の地としてのいろんな思いがあるかと思っていますので、これからはしっかり連携をして取り組んでいきたいと思っています。

一つお願いしたいのは地籍調査を市町の皆さんにご協力をいただいて進めていかないといけないと思っていますので、よろしくお願いしたいと思います。

今日は、本当にどうもありがとうございました。